

おいしいちゃんとおばあちゃんが作るお米

ごう田小学校 三年 たちはな 京

ぼくのおいしいちゃんとおばあちゃんは、仕

事が休みの日にお米を作っています。ぼくは

二人の作るお米が大すぎです。とくに、めん

たいごや野菜のため、ちりめん、白菜のつり

物といっしょに食べるごはんは、とてもおい

しいです。

ぼくは毎年、田植えといねがりのお芋つだ

いをしています。田んぼには、おたまいやく

し、カエル、へび、ヤブ、とんぼ、ちゅうが

い、色いろな生き物がいます。そんな生き物

たちに出会うと、ぼくは、

「お米って、自然にかこまれて育っているん

だない。

と、うくづく思います。

そんな自然の中で育つおいしいお米だからと

「お米を作るって、たいへんなんだない。

と思うことがありました。

それは、ぼくがおいしいちゃんとお米を

「た時のことですか。ハンドルを切った時に、いちぢちぢ、とふんずけて、きずつけてしまっただけです。おいしいちゃんは何も言わなかつたけど、ちよ、とがなしそうでした。」

ぼくは、二人が作ったお米をこわからも食べづづけたいです。でも、二人はいつかいなくな、てしまいうから、
「どうしたのいいんだらうい」ときどき考えます。

ぼくも大人になったら、仕事か休みの時に、お米を作、て、自分が作ったお米を食べたいので、二人に米作りの方ほうを教えてもらおうと思います。二人が作るお米は、とてもおいしいけど、それにまけないくらいおいしいお米を作りたいです。そして学校の友だちにも食べてほしいです。

「食事のごはんが出る時には、
「いつもおいしいお米をありがとう。」
「て、二人の顔を思いうかべながら、感しゃの言葉を心の中でつたえています。」